

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	第3回 姫路市スポーツ推進計画検討会
2 開催日時	令和6年11月6日（水曜日） 14時00分～15時25分
3 開催場所	姫路市役所本庁舎10階 第4会議室
4 出席者又は欠席者名	（出席者）別紙1参照
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、0人
6 議題又は案件及び結論等	<ul style="list-style-type: none">・ 前回検討会以降の修正点について・ 中間とりまとめ案・概要版について・ 今後のスケジュール
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙2参照

姫路市スポーツ推進計画検討会構成員名簿

(敬称略)

	氏 名	肩書等
出席	末井 健作	兵庫県立大学名誉教授
出席	松本 直子	姫路市スポーツ協会 副会長
出席	恒木 克仁	姫路市スポーツ推進委員会 会長
出席	早藤 卯人	兵庫県高等学校体育連盟西播支部 理事長
出席	内海 雅章	姫路市中学校体育連盟 会長
出席	田中 彰子	姫路市小学校体育連盟 副会長
出席	平山 秀子	姫路市立幼稚園健康推進連盟 理事
出席	小林 弘子	特定非営利活動法人 姫路市身体障害者福祉協会 副理事長
出席	合田 勝彦	姫路商工会議所 専務理事
出席	岸田 直美	一般社団法人日本女子サッカーリーグ 理事
出席	天野 宏信	公募市民
出席	山本 裕子	公募市民

	<p>1 開会 (14:00)</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 前回検討会以降の修正点</p> <p>(2) 中間とりまとめ案・概要版</p>
委員	<p>資料3計画概要版の「主な取組内容」に、中学校部活動の地域移行について記載すべきではないか。地域の力を借りながらやっていくことになるので、基本方針1の「2 地域スポーツの活性化」の中に入れてはどうか。記載にあたっては健康教育課にも相談されたい。</p>
委員	<p>中学校部活動の地域移行は、一部の文化部も対象となるため基本方針1の「1 誰もがスポーツに取り組める環境づくり」の「① 子どものスポーツの推進」の中に追加した方が良いのではないか。</p>
委員	<p>資料3計画概要版について、基本目標1の下の文章に「誰もが」という言葉が二度出てくるが片方で良いと思う。また、文章が長いので分割した方が良い。</p>
事務局	<p>記載を見直したい。</p>
委員	<p>資料1別紙の目標設定において、「大規模大会等の開催件数」を目標項目に設定しているが、中体連の大会など、持ち回りで開催される大会もカウントするの か。</p>
事務局	<p>持ち回りであったとしても、一定以上の規模をもつ大会を開催するには相応のスポーツ施設を備えている必要がある。基本方針にもある「スポーツ資源を活かしたまちの賑わいづくり」といえるので、カウントすべきと考える。</p> <p>(3) 今後のスケジュール</p>

座長

10年後を見据えて、姫路のスポーツが目指すべきところ等について、各委員のお考えを聞きたい。

委員

第1回検討会でも申し上げたが、これからはスポーツと観光をセットで考えていく必要がある。今年6月にバトントワーリングの大会事務局を務めた際、姫路観光コンベンションビューローが、着ぐるみの貸出や観光施設の割引券の配布など、姫路をアピールするための様々な活動をしていることを知った。遠方からの参加者にとっては旅行という感覚がある。このような参加者に対し、観光も含めて姫路をアピールしていくことで、姫路のスポーツへの注目も高まるのではないかと。主催者側は、会場の確保等どうしたら良いのか分からず障壁になっている。最初の一步を踏み出せるような支援、姫路市は受け入れてくれると思ってもらえるような取組をしていくべきだと思う。

委員

先日、アクリエひめじで全日本パワーリフティング選手権大会が開催された。参加申込は募集1日目で満員に達するほど人気があり、400人以上の選手が集まった。アクリエひめじは会場を広くとることができ、電車・車でのアクセスも良く、姫路城を見て帰れるため、参加者から大変好評であった。ほかのスポーツ団体もアクリエひめじを活用できればもっと多くの大会を呼べるのではないかと。

委員

第1回検討会でスポーツ情報の発信強化に注力すべきと申し上げたが、その後インスタグラムの開設など新たに取り組まれている。さらに情報発信のツールを増やし、より効果的な広報につながっていけば良いと思う。

委員

身体障害者がスポーツを実施するには、まず施設がバリアフリー対応でなければ難しい。また、自分たちだけではできないことが多く、10年前にグラウンドゴルフ大会を実施した際もスタッフの確保が大変だった。卓球バレーなど、障害者だけでなく高齢者も一緒になって参加できる競技であれば、高齢者がセッティングすることができる。このようなケースが増えてきたら良いと思う。

座長

受付をするにしても障害者だけでは難しい面があると思う。スポーツボランティア

事務局	<p>ィアを実際に利用するにあたって、何をどこまでお願いできるのかという仕組づくりが求められていると思う。</p> <p>手柄山の新体育館等はバリアフリー対応と聞いているが、どのような状況か。</p> <p>手柄山新体育館等の設計にあたっては障害者団体の意見を聴き、ワークショップを実施した。バリアフリーは当然として、高齢者や障害者にとって使いやすい施設になるよう工事を進めている。</p>
委員	<p>先日の全日本パワーリフティング選手権大会にはパラ選手も参加した。姫路にも協会があり、ほかのスポーツにも協力できると思う。また、学校に依頼してもらえれば、学校側にとっても子どもや教師が身体障害やユニバーサルスポーツについて勉強する機会につながるので、ボランティアの輪が広がりやすいと思う。</p>
委員	<p>高校の方でもボランティアの依頼は歓迎される。ボランティア経験が進学において評価されるので、各高校で協力的に対応してくれると思う。</p>
委員	<p>スポーツと観光をセットで、とのご意見があったが、スポーツと人づくりも大切なテーマであり、この2本柱で進めていくべきだと思う。今は観光だけが目立っている。今後、スポーツボランティアも含め、スポーツと人づくりに関してはスポーツコミッションが担っていくべきだと考える。</p>
座長	<p>宮崎県ではプロ野球やプロサッカーのキャンプをはじめ、アマチュアスポーツの誘致にも力を入れている。同じレベルでは難しいかもしれないが、将来的にはスポーツコミッションを母体とした仕組づくりを考えていく必要があると思う。</p>
委員	<p>昔と比べてクラブチームに参加して、学校部活動に参加しない子どもが増えてきたと感じる。例えば、野球は9人必要なので他校との合同チームで活動しなければならず、このような現状で今後10年継続していけるのか。部活動は子どもにとって最も身近なスポーツの場なので懸念している。</p>
委員	<p>子どもの人数が減れば、部活動顧問である教師の人数も減り、いずれ部活動が</p>

成り立たなくなる。子どものスポーツの機会を確保するために地域移行という話が出てきた。市内中学校の部活動は全 430 部あり、その数だけ顧問の教師がいる。顧問に代わる指導者を十分に確保するのは簡単ではない。姫路は市域が広く、地域によって実情が異なるため、さらに難しい状況である。現状としては、国から提示されたスケジュールに基づいて、県や市が動いているところである。

委員

学校部活動の地域移行については、子どもが選択できる環境になることが望ましいと思う。教職員の勤務実態の見直しという目的もあり良い流れだと思うが、姫路市は動きが遅いのではないか。内情を伺うと、学校に部活動がある場合は、地域チームには所属せず学校部活動に所属するという話を聞いた。これは地域移行の趣旨と逆行していると感じる。せっかくの流れなので推進する方向で進んでほしいと思う。

委員

当初、地域移行の目的は子どもがスポーツをする機会の確保と、教育の働き方改革の両輪と言われていた。国は勝利至上主義ではないと言っていたが、実際に指導者がチームを立ち上げたときに、強い子どもを集めて明らかに勝ちに行っていると捉えられてしまったことが問題だったと思う。

学校部活動に同種目があれば地域クラブから大会に出場できないというのは、県が決めたルールである。地域クラブへの移行と学校部活動の維持という、両方の立場から意見が出されていると感じる。

委員

計画書の中にスポーツツーリズムについての記載があり、「大規模大会等の開催件数」という KPI も設定されている。この目標どおりに大規模大会が開催されれば、相当な人が姫路に来て観光していただいて、地域活性化にもつながってくると思う。目標達成に向けて進めていってほしい。

委員

親子で遊べるような場所が手柄山にできてほしい。子どもにとって遊びの中にスポーツがあればスポーツ嫌いな子はいなくなると思う。手柄山は駅近で、駐車場もある。ベビーカー押して行き来できると良いと思う。

また、託児所があれば、親が子どもと少し離れて、昔取り組んでいたスポーツに取り組む時間が生まれると思う。

事務局

手柄山中央公園は総合公園であり、レクリエーションも取り入れながらスポーツ施設を整備していきたい。新駅から直結で新体育館とプールにアクセスできる。かつての市民プールと比較して規模は縮小するもののレジャープールを整備する。また、体育館内にはキッズルームを設置する。子どもを預けて、トレーニングルーム等でヨガやダンスをできるようなコンセプトで整備を進めている。

委員

スポーツ推進計画は10カ年計画とのことであるが、私自身、10年後は退職していると思うが、例えば指導者としてスポーツに携わっていたいと思う。それがやりやすいような推進計画になってほしいと思う。

座長

前回会議でも話にあがった、指導者の確保と指導者の質の向上につながる話だと思う。そのための枠組づくりが必要になってくる。

委員

スポーツと観光といった対外的な取組は重要だと思うが、一方で地域スポーツの現場としては、まずは市民がスポーツに興味をもつこと大事だと感じている。グラウンドゴルフの大会には大勢の参加者が集まる。小学生が参加するとなると親が付いてくるが、市民がスポーツに興味を持つためのもっと良い取組ができないかなと思う。

体験教室を年に4回ほど実施しているが、今年実施した卓球バレーは好評であった。従来の野球、バレーボール、ソフトボールは廃れてきている。ニュースポーツは、子どもも高齢者も障害者も取り組める。そちらの方向にシフトしていくべきだと思う。アスリートの育成はスポーツ協会にお任せして、地域スポーツはハードルが低いスポーツ、いつでもそこでやっているスポーツを提供していきたい。まずは、市民にスポーツに興味を持つための取組が必要だと思う。

座長

本日のご意見などをまとめると、

- ・中学校の運動部活動の在り方が大きく変わっていく。教育委員会を含めて市全体として取り組み、あとで良かったといえるような体制を作り上げてほしい。
- ・スポーツツーリズムの推進に向け、姫路コンベンションビューローだけでなく、スポーツコミッションがどのように関わっていけるのか。

- ・スポーツは人づくりという観点から、子どもが成長する過程において、ハードとソフトの両面でどのように取り組んでいくのか。
- ・子どもの頃にスポーツが好きではなかった人たちも、一緒に体を動かしてみよう、また取り組んでみようと思えるような環境の提供と、そのための枠組づくりが必要である。

事務局

第4回検討会の日程ほか事務連絡

3 閉会 (15:25)